

## 4章 2030年に1990年比25%削減の姿を描く

第3章で行った推論の主たる結論は；

2030年の電力需要推定 195.2 億 kWh を発電するのに、電力会社が現在の日本の平均的な換算係数 0.41kgCO<sub>2</sub>/kWh の割合で CO<sub>2</sub> を発生すると想定するなら、2030年の三重県内の年間 CO<sub>2</sub> 発生量は 1197 万トンになる。

2030年の電力需要推定 195.2 億 kWh の全てがカーボンフリー（CO<sub>2</sub> を排出しない）とするなら、2030年の三重県内での年間 CO<sub>2</sub> 発生量は 1197 万トンになる。

2030年に三重県が1990年比で25%のCO<sub>2</sub>排出量削減を行うとしたら（III編1章表2で1990年CO<sub>2</sub>排出量が2489万トンなので）1867万トンとなる。

以上の関係を図14に示す。上記に示すように、1990年比で25%削減するには、電力の16.3%をカーボンフリーにすればよいことが分かる。

因みに、195.2 億 kWh の 16.3% は 31.8 億 kWh である。

